

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第694号 平成26年2月25日

土曜授業（2）

土曜日の授業について希望する保護者は決して少なくありませんが、こうした中、平成24年度において土曜授業を実施した学校は、公立小学校8.8%、公立中学校9.9%、公立高等学校3.8%と、非常に限定的です。

その背景について学校側では、教員の勤務体制の調整、地域の教育活動等との調整、部活動の日程との調整、教員の負担等の問題を上げています。こうした事もあって、土曜授業の実施に対しては、各教育委員会、学校共に消極的というのが現状といえるでしょう。

実際、子ども達は、習い事や部活等で土曜日にも結構忙しいですし、完全週休2日制が定着している中での土曜日の授業復活に違和感を持つ方もいると思います。

一方で、保護者の土曜授業に対する関心と期待が大きい事という現実も、我々はよく認識しておく必要があります。

昨年の4月に公表されたベネッセ教育研究開発センターの調査結果によると、73.6%の保護者が「土曜日の補習授業の実施」を望んでいる事が明らかとなっています。

面白いのは、「完全週5日制を完全週6日制に戻す」事について聞いたところ、「完全週6日制」に賛成なのは23.4%に止まっています。一方「完全週5日制」のままで良いとする保護者の方も、僅かに17.9%となっており、57.3%の保護者は「隔週週6日制」での土曜授業を求めている事です。

こうした保護者の意向について、ベネッセ教育研究開発センターの木村治生主任研究員は、週休2日制が浸透している状況の中、「土曜日を授業ばかりではなく多様な活動に使いたいとする保護者の考えがうかがえる」と述べています。

土曜授業の導入に対しては、完全学校週5日制が定着している中で、子ども達は土曜日にも相当に忙しい事や、家庭の中で子どもと触れ合う時間が減るといった事を背景に、慎重な意見が少なくありません。また、土曜授業を導入した場合、教師は益々忙しくなり、負担が増えるといった声も聞かれます。

しかし、土曜授業の導入は、単に授業時数を増やす事を目的としているのではなく、飽く迄も「学校において土曜日における充実した学習機会を提供する」為のものであり、

- 学校や家庭、地域が連携、協力する機会を広げる事が出来る
- 学校の特色や独自性の発揮に活用する事が出来る

事等の効果が期待出来ます。

また、教師の負担に関しても、土曜授業の時間については長期休業期間を有効に活用する事により調整する事は可能であり、特に、平日の時間割が軽減される事により、その分、平日に教員が子どもと向き合う時間を確保する事がより容易になるのではないかと考えられます。

土曜授業に慎重な意見の中には「実施するのであれば全国一律とすべき」という意見も有りますが、そろそろそうした横並び意識からは脱却すべきでしょう。

勿論、土曜授業を検討するに当たっては学校を取り巻く環境に配慮しなければなりません。各教育委員会や学校におかれては、土曜授業導入の趣旨を十分理解され、その導入について積極的に検討して欲しいと思います。（塾頭：吉田 洋一）